

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-016138

(43)Date of publication of application : 21.01.1992

(51)Int.Cl.

A01K 97/04

A01K 85/00

A23K 1/18

(21)Application number : 02-116401

(71)Applicant : TAKEISHI KAZUYOSHI

(22)Date of filing : 02.05.1990

(72)Inventor : TAKEISHI KAZUYOSHI

(54) ARTIFICIAL BAIT FOR FISHING

(57)Abstract:

PURPOSE: To improve taking of the bait with fishes and enhance luring effects on the fishes by mixing a starch syrup with a coagulant as principal components and forming the resultant mixture.

CONSTITUTION: The aforementioned artificial bait for fishing is obtained by mixing starch syrup with a coagulant and forming the resultant mixture into a desired shape. For example, the starch syrup, gelatin (coagulant), a perfume (fish attractant), a coloring matter, etc., are used as raw materials for the above- mentioned artificial bait.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平4-16138

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)1月21日

A 01 K 97/04

B

8003-2B

A 23 K 85/00

1 0 2 C

7110-2B

6852-2B

A 01 K 85/00

J

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 釣り用疑似餌

⑯ 特 願 平2-116401

⑰ 出 願 平2(1990)5月2日

⑱ 発 明 者 武 石 一 吉 千葉県山武郡成東町木戸2328

⑲ 出 願 人 武 石 一 吉 千葉県山武郡成東町木戸2328

⑳ 代 理 人 弁理士 小林 正治

明細書

1. 発明の名称

釣り用疑似餌

2. 特許請求の範囲

水飴と凝固剤とが混合され、所望形状に形成されてなることを特徴とする釣り用疑似餌。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は海での磯釣りや舟釣り、川釣り、釣堀での釣り等、一般に釣りをするとき用いられる釣り用疑似餌であり、特に魚が食べることのできる釣り用疑似餌に関するものである。

(従来の技術)

釣り用の餌は大きく分けて二つの種類がある。一つは魚が食べることのできる本物の餌であり、他の一つは本物の餌に似た疑似餌である。

本物の餌は更に生餌と練り餌に分けられる。生餌としては、海釣りでは主に青イソメやオキアミが用いられ、川や河口での釣りではゴカイやミミズ等が用いられる。練り餌は餌・魚粉・みずま

をうどん粉等で練り固めたものであり、釣堀での釣りや海釣りの一部で用いられる。

疑似餌は釣りたい魚の好みに合わせて形や色等の異なるものが各種あり、疑似餌の素材としては金属、プラスチック、ゴム等の他、寒天等がある。

(発明が解決しようとする課題)

金属、プラスチック、ゴム等を素材とした従来の疑似餌2(第4図)は魚が食べることができないので、魚の食い付きが悪く、釣りの成果が上りにくかった。また従来の疑似餌2はいずれもそれ自体に動きがなく、特に金属製の疑似餌2は素材に柔軟性がないので、波の揺れによっても形状が変化しにくく、生餌と比べた場合、動くものに敏感な習性を持つ魚をおびき寄せることが難しいという問題があった。

従来の疑似餌2のうち素材に寒天等が用いられたものは、それ自体は動きがないが、素材が柔軟であるため波に揺られて形状が変化し、あたかも生き物のように見えるので、魚をおびき寄せるの

には使われている。反面、素材に硬さや粘りが乏しいので釣り針3に付けにくく、形が崩れ易く、釣り針3から餌が抜け易い、つまり針もちが悪いという問題があった。

(発明の目的)

本発明の目的は魚が食べることができ、釣り針に係止したときの針もちがよく、波や水の流れに揺られて動き易く、魚をおびき寄せ易い釣り用擬餌を提供するものである。

(課題を解決するための手段)

本発明の釣り用擬餌1は第1図のように水飴と凝固剤とが混合され、所望形状に形成されてなることを特徴とするものである。

(作用)

本発明の釣り用擬餌1は従来の釣り用擬餌と同様に第1図のように釣り針3に係止して使用される。本発明の釣り用擬餌1はその素材として水飴が用いられているので粘りがあり、釣り針に付け易く、しかも水中での針もちがよい。

また、波の揺れ等によって形状が変化し易く、

を100g作るときの製造例を次に示す。

①. 水54.7gに水飴40gを加えて加熱して水飴を溶かす。

②. 水飴が溶けたら温度を下げて香料(フィッシュアトラクトant)と色素を加える。

③. 防腐のため脱酸素剤としてデハイドロ酢酸ナトリウム0.2gを加える。

④. 凝固剤としてゼラチン5gを加えた後、60~65℃で加熱してよく溶かる。

⑤. 攪拌してゼラチンがよく溶けたら加熱を停止して、所望形状の型等に流す。

⑥. 冷やし始めてから約一日経つと全体が凝固し、釣り用擬餌1が完成する。

前記①~④の工程を経た原料は型に流すのではなく適宜の形状、例えば第3図のように薄板に固めたものを所望形状に切断する等してもよい。

また魚の目をひくよう成形時に着色したり、模様をつけたりするとなお効果的である。

所望形状に形成された釣り用擬餌1は第2図のように、例えば10コ入り1パックというよう

特開平4-16138 (2)

特に形状を小魚に模した場合はあたかも生きた魚のように見えるので、魚をおびき寄せ易い。

また、水飴が用いられているので魚が食べ易く、食い付き易い。

擬餌1に魚の好む香料を含ませておくと、使用時に同擬餌1が水中で溶けると同時に、香料も水中に流れ出すので魚をより効果的におびき寄せることができる。

(実施例)

本発明の釣り用擬餌1の一例を示す第1図において1は釣り用擬餌1である。この釣り用擬餌1は原料としては例えば水飴、ゼラチン、香料(フィッシュアトラクトant)、色素等が使用される。

これら原料の配分は擬餌1の全重量を100%としたとき、例えば、水54.7%、水飴40%、ゼラチン5%、香料(フィッシュアトラクトant)0.1%、色素0.1%、脱酸素剤のデハイドロ酢酸ナトリウム0.2%とする。

前記配分にしたがって本発明の釣り用擬餌1

に容器4の中に収容密封したり、図示されていないフィルムで包装したりすると体裁がよい。この場合、釣り用擬餌1が容器4に付着したり擬餌1同士が付着したりすると、使用のために同擬餌1を容器4から取出すときに同擬餌1が欠けたり切れたりし易くなるので、釣り用擬餌1の表面に粉をまぶしたり、食物油等を塗布しておく等して擬餌1が容器4に付着しにくくなるようにしたり、擬餌1同士が付着しにくくなるようにしておくのが望ましい。

また、容器4に収容されてから使用されるまでの間に同擬餌1の水分が抜けて乾燥して硬化しないように、容器4やフィルムとしては気密性のよいプラスチック製のものをを用いるのが望ましい。

(発明の効果)

本発明の釣り用擬餌1は次のような効果がある。

①. 素材に水飴が用いられているので魚が食べることができ、このため魚の食い付きが良い。

特開平4-16138 (3)

②. 素材に水飴が用いられているのである程度の硬さと粘りがあり、形崩れしにくく、針につけ易く、針もちがよい。

③. 素材に水飴が用いられているので柔軟製があり、波の揺れ等に伴って形状が変化するので疑似餌1の形状を小魚に模した場合、あたかも生きた小魚のように見え、魚をおびき寄せる効果が大い。

④. 水中に入れて魚の食い付きを待つ間に水飴が僅かづつ溶け出すので、予め用疑似餌1に釣りたい魚の好む香料を含ませておくと、水中で餌が溶け出したときに同時に香料も流出するので更に効果的に魚をおびき寄せることができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の釣り用疑似餌の一実施例を示す正面図、第2図は同釣り用疑似餌を容器に収容した状態の平面図、第3図は同釣り用疑似餌の他例を示す平面図、第4図は従来の疑似餌の一例を示す正面図である。

1は釣り用疑似餌

3は釣り針

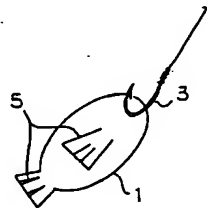
4は容器

出願人 武石一吉

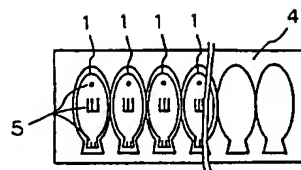
代理人 弁理士 小林正治



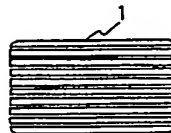
第1図



第2図



第3図



第4図

